

# 疥癬について

2024年3月

## 1. 疥癬とは？

疥癬は「ヒゼンダニ(疥癬虫)」というダニの一種が、人の皮膚の最も外側の角質層内に寄生するために起こる人から人にうつる感染症(接触感染)です。



ヒゼンダニはメス成虫が大きく、体長およそ0.4mm、オス成虫はおよそ0.2mmで、肉眼で虫体を見分けることは困難です。

メスは人の皮膚に取り付くと、表皮角層に侵入し、トンネルを掘りながら 4~6週間に1日 2~4 個産卵します。産みつけられた卵は、3~5 日で幼虫がふ化します。この幼虫は 2 週間程度で成虫となり、卵を産みはじめます。

ヒゼンダニの生息場所は限られており、人の皮膚を離れると比較的短時間で死滅します。また、熱、乾燥に弱く、50℃では 10 分程度で死滅します。

## 2. 通常疥癬と角化型疥癬の違い

	通常疥癬	角化型疥癬(ノルウェー疥癬)
	感染力が大きく違う！	
ヒゼンダニの数	数十匹以上	100 万~200 万匹
人の免疫力	正常	低下している
感染力	弱い	強い
主な症状	赤いブツブツ(丘疹、結節) 手首から先、指の間、手のひらが多い。次いで肘、陰部、わきの下、おしりなど。(疥癬トンネル)	あかが増えたような状態 (角質増殖:頭・首を含めてほぼ全身にみられる。特に手足、おしり、肘、膝で症状が顕著である。)
かゆみ	強い	不定
感染経路	<b>直接経路</b> 肌と肌が直接ふれることで感染。 <b>間接経路</b> まれに寝具や衣類などからも感染することがある。	短い時間の肌と肌の直接接触、肌が触れなくても、衣類や寝具を介した間接的な接触などでも感染する。 皮膚からはがれ落ちたかけら(落屑)にも多数のヒゼンダニが含まれており、感染の原因になることがある。
症状の出る場所	顔・頭を除く全身	全身
潜伏期間	症状の出ない期間が約1~2ヵ月。(角化型疥癬はヒゼンダニの数が多いため、潜伏期も4~5日と非常に短い。)	



施設等の入所時に症状がなくても潜伏期間中のことがあるので、経過観察が必要です！

### 3. 治療について

	保険	一般名 (商品名)	一般的な使用方法	副作用
A 内服	適用	イベルメクチン (ストロメクトール)	主治医に処方された分を 空腹時に服用。	かゆみが一時的に 強まる、肝機能が 悪くなる。
B 外用	適用	フェノリン (スミスリンローション)	1週間間隔で1回1本(30g)を首から 下の皮膚に塗布し、12時間経過し てから洗い流す。少なくとも2回の 塗布を行う。	皮膚炎、AST・ALT上昇など
	適用	イオウ・有機イオウ (イオウ軟膏・チアントール)	入浴後、首から下の全身に塗布 後、24時間で洗い流す。これを5 日間繰り返す。(これを1クールとす る。実際は1クール以上使用するこ ともあるため、主治医に確認する)	「イオウかぶれ」や 皮脂欠乏性皮膚炎など
	適用外	クロタミトン (オイラックス軟膏)	入浴後、首から下の全身に塗布 後、24時間で洗い流す。これを5 日間繰り返す。(これを1クールとす る。実際は5日以上使用するこ ともあるため、主治医に確認する)	熱感、刺激症状、 接触皮膚炎など
	特殊製剤のため インフォームドコ ンセントが必要	安息香酸ベンジル	入浴後、首から下の全身に塗布 後、24時間で洗い流す。これを2 ～3日間繰り返す。(いつまで使用 するか主治医に確認する)	中枢神経障害
かゆみなどに対しては、抗ヒスタミン剤や抗アレルギー剤などを内服				

通常疥癬－A 単独、B 単独、A+B 併用の治療

角化型疥癬－A 内服 + B 外用薬の併用治療を実施

また、肥厚した皮疹や爪は角質層を取り除く治療を併せて行う  
(爪だけに限局した場合は、イベルメクチンは投与しない)



\* 外用薬は、通常疥癬の場合は首から下の全身に塗布し、角化型疥癬の場合は顔や頭も含めた全身に塗りましょう。特に指の間や足・陰部、臀部は塗り残さないように注意しましょう。

\* ヒゼンダニは皮疹のないところにいることが多いため、皮疹のないところにも塗りましょう。

\* 薬を塗る範囲について、主治医の指示を確認しましょう。

## 4. 対応・対策

病型	通常疥癬	角化型疥癬(ノルウェー疥癬)
隔離	不要 (ただし、できる限り個室対応が望ましい)	要
身体介護	手洗いの励行 手袋・使い捨ての長袖ガウンの着用 (使用後の手袋やガウンは落屑が飛び散らないようにポリ袋などに入れる)	手洗いの励行 使い捨て手袋とガウン、キャップ、足袋を着用(隔離期間のみ)
室内等の環境整備 	通常の方法で実施	患者がいた居室や立ち回った場所には、殺虫剤(ピレスロイド系)の1回散布 皮膚の屑を掃除機で残さず除去
衣類・シーツ類の処置 	普通に洗濯後に乾燥機使用。 もしくは 50°C10 分間熱処理後、洗濯。  ※熱処理—熱湯をかける、アイロンを当てるなど 布団は乾熱滅菌(乾燥業者の利用など)もよい。  (運搬時は落屑が飛び散らないようにビニール袋か蓋つきの容器にいれて密閉して運ぶ)	
職員・同室者の予防的治療	・基本的には <b>不要</b> ・雑魚寝状態など状況に応じて同室者、家族等(濃厚な接触のあった介護者なども含む)には、クロタミンを1週間全身に外用する。またはイベルメクチンを1回分水中で内服する。(いずれも保険適用外)	・ <b>要</b> ・クロタミン 1 週間全身に外用。またはイベルメクチンを1回分水中で内服する。(いずれも保険適用外) 同室者:症状の有無を問わず検討 職員:患者との接触の頻度などを配慮して検討